

# 教員集団内における心理的安全性の醸成要因に関する研究

大阪公立大学大学院文学研究科人間行動学専攻教育学専修 和田真季

## ■研究目的と背景

教育の不確実性への対応

- ・教員間の相互作用を前提とした専門性開発（佐藤 2015など）
- ・教員間の協働化をめざした学校組織開発（佐古 2011など）

学校の組織特性に伴う個業化の抑制

→これらは共通して、教員間での率直な発言や創造性の発揮の重要性を指摘。

### ・心理的安全性

…他者から批難されるという対人関係リスクを伴う行動を、そのリスクを懸念せずに行える安全な場であるとメンバーに共有された状態（Edmondson 1999）。

学校組織は共同歩調主義・相互不干渉主義に陥りやすく、他教員に自身の教育観や実践を示すことに恐れを抱きやすい（油布 1999）。

率直な発言や創造性の発揮を促す心理的安全性が教員集団内においていかにして醸成されるのか、その要因を明らかにする。

## ■調査概要

- ・調査対象
  - ：公立X中学校の初任教員(2名)、異動教員(3名)、学年主任(3名)
  - 特に対人関係リスクに直面しやすい立場として着目。
- ・調査方法：インタビューおよび所属する学年集団の参与観察

## ■現時点での調査結果

	主な対人関係リスク	率直な発言や創造性の発揮ができた背景	醸成要因
初任教員	ミスをした際や他教員に質問・支援要請をした際の「邪魔をする人/無能だと思われる不安」	教員みんなで対応していこうという雰囲気 他教員から頼ってもらえた経験 生徒の学習機会を最優先するようになった転機	支援体制の構築 責任の共有 教師像のリフレーミング
異動教員	慣れない環境への対応困難や従来の教育活動との違いに伴う「ネガティブ/無能だと思われる不安」	「到達地点」の共有と 「そこまでいくやり方」の裁量の移譲 「しんどい」の共有と連携	指導の到達目標の共有および 指導方法を柔軟に選択する余地 負担の共感・共有
学年主任	学年の方針が従来の教育活動と異なる際に生じる「ネガティブ/邪魔をする人だと思われる不安」	トップダウン的な方針の提示と ボトムアップ的な意見の吸い上げの両立	指導方針に対する調整的アプローチ (学年集団参入のタイミングや 他教員の属性等により阻害され得る)

## ■今後の課題

- ・今後は一つの学年集団に焦点を当て、心理的安全性が醸成されるプロセスおよび要因を、同じ集団内で共有された文脈をもとに分析・考察を行う。
- ・これらの知見をもとに、心理的安全性の醸成要因に関するモデルの開発を行っていく必要がある。